

平成30年4月1日 大垣市は市制100周年を迎えました

●ごあいさつ●

大正7年(1918年)4月1日に誕生した本市は、市制100周年を迎えました。

この記念すべき節目を、「これまで」の歩みと「これから」をむすぶ年と位置づけ、新たな未来に向かって飛躍・発展する契機ととらえ、市民総参加で盛大にお祝いするとともに本市の魅力を広く情報発信し、次代へつなげてまいりたいと考えております。

そこで、「未来を創る“夢”かがやきプロジェクト」を基本コンセプトに、市民参加型の祝祭感あふれる多彩な市制100周年記念事業を展開してまいります。

多くの皆さんとともに、市制100周年を大いに盛り上げてまいりたいと存じますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



大垣市長 小川 敏

市制100周年の大きな節目の年を迎えるにあたり、市民の一人として心から祝意を表すとともに、実行委員長の大役を仰せつかり、皆さんとともに市制100周年を祝うため、力を尽くす所存でございます。

古くから「水の都」と呼ばれる本市は、豊富で良質な地下水を活用した岐阜県内有数の産業文化都市であると同時に、大垣まつりの「山・鉾・屋台行事」、奥の細道の「むすびの地」など、国内外に知られる多くの観光資源を有しています。

本実行委員会では、これらの魅力を最大限に生かし、皆さんの創意とエネルギーを結集して記念事業を推進してまいります。

ぜひとも、100年に一度のビッグイベントに積極的にご参加いただき、市制100周年をともに盛り上げてまいりましょう。



大垣市制100周年記念事業
実行委員会 委員長 田中 良幸

●市制100周年シンボルマーク●



「水の都・大垣」の象徴である豊かな水を、色や形で表現するとともに、100の数字の上部のみを印象的に配置し、線は徐々に太くすることで未来に向けて発展していく様子を、0の数字の線は幾重にも重ねることで、大垣の魅力を一層強く情報発信する様子として表現しています。また、数字と数字を重ねることで、人と人が寄り添い発展していく様子をあわせて表現しています。

大垣市のあゆみ〈市制施行以降〉

●大正

大正 7年 4月	大垣市制を施行
大正 8年 8月	国鉄美濃赤坂線が開通

●昭和

昭和 9年 4月	戸田公入城300年祭を開催
昭和27年 6月	大垣競輪場を開設
昭和31年 3月	国鉄樽見線(大垣～谷汲口)が開通
昭和34年 4月	大垣城天守閣を再建
10月	市民病院を開設
昭和35年 10月	人口10万人を超える
昭和38年 3月	県道大垣一宮線が開通
昭和39年 2月	新市庁舎が完成
9月	名神高速道路大垣ICが完成
昭和40年 9月	岐阜国体夏季・秋季大会を開催
昭和42年 9月	不破郡赤坂町と合併
昭和43年 4月	市制50周年記念式典を開催 市民会館が完成
昭和49年 12月	岐大バイパス線が全線開通
昭和50年 4月	文化会館が完成
昭和55年 2月	総合体育館が完成
昭和57年 12月	国道258号線が全線開通
昭和60年 6月	総合福祉会館が完成
10月	戸田公入城350年祭を開催
昭和62年 9月	浅中公園総合グラウンドが完成
10月	大垣駅前広場が完成
昭和63年 4月	市民憲章を制定

●平成

平成元年 6月	市民プールが完成
平成 4年 4月	スイトピアセンター学習館が完成
8月	人口15万人を超える
平成 7年 7月	こどもサイエンスプラザが完成
平成10年 2月	情報工房が完成
6月	武道館が完成
平成12年 3月	決戦関ヶ原大垣博を開催
平成13年 7月	守屋多々志美術館を開設
平成14年 6月	子育て交流プラザを開設
平成16年 4月	おおがき芭蕉生誕360年祭を開催 大垣環状線が全線開通
平成18年 3月	養老郡上石津町・安八郡墨俣町と合併
平成19年 1月	市民サービスセンターを開設
10月	多目的交流イベントハウスを開設
平成21年 9月	大垣駅南北自由通路「水都ブリッジ」が完成
平成22年 10月	子育て総合支援センターを開設
平成24年 4月	奥の細道むすびの地記念館が完成
9月	大垣駅北口広場が完成 東海環状自動車道大垣西IC～養老JCT開通 ぎふ清流国体・清流大会を開催
平成25年 4月	昼飯大塚古墳歴史公園が完成
平成26年 3月	「大垣船町川湊」が国名勝に指定
平成27年 3月	「大垣祭の軌行事」が国重要無形民俗文化財に指定
平成28年 10月	キッズピアおおがき子育て支援センターを開設
12月	「大垣祭の軌行事」がユネスコ無形文化遺産に登録
平成30年 4月	大垣市制100周年



市制施行当時の市庁舎 / 大正7年

大垣駅前広場完成
昭和62年

奥の細道むすびの地
記念館オープン / 平成24年